

りぼん

VOL.6

(外国語指導助手)

特集

ALTのみなさんが 気づいたこと



南アフリカ
ハウテン州

カナダ
ブリティッシュ・コロンビア州

アメリカ
ネブラスカ州

アメリカ・カナダ・南アフリカ
新見も **グー!!**

男でも **グー!!**
女でも **グー!!**

アレックス・ウシジマさん
カナダ
ブリティッシュ・コロンビア州出身
訪問校：新見第一中 熊谷中

マリルー・スナイダースさん
南アフリカ ハウテン州出身
訪問校：哲多中 井倉中

ブライアン・ウィットさん
アメリカ ネブラスカ州出身
訪問校：唐松小 草間台小 豊永小
足見小 萬歳小

新見の子どもたち Let's チャレンジ!!

日本に来て「アレ？」と思ったこと



お茶やコーヒーを準備するのはほとんどが女性だけど、セルフサービスでいいのでは？

俺も賛成！

私も賛成！

学校の部活動は、なぜ必ず参加しなければいけないのかな？

日本では、いじめやセクハラ、パワハラ(*1)があっても見てみぬふりをしているように思うけど... (カナダでは人事に報告)

難しい問題だね...

子供向けの教育番組が充実している!! 特に英語のニュースを吹替え、字幕、英語の3回に分けて放送する番組は面白い!!



日本の学校には家庭訪問があることに驚いた。カナダでは親が学校を訪ねるよ。

そうなのかなぁ

南アフリカの学校では、掃除は会社をお願いして、食事は食堂でセルフサービスだけど、日本の学校では掃除も食事(給食)の準備も子どもたちがやっている。それは責任感が生まれるのでとてもいいことだね。

うんうん

日本の子どもたちは、不合格になったり留年したりすることはダメだと思ってるせいか、失敗を恐れて授業で手を上げることも少ないなあ。

失敗をおそれずもっとチャレンジだね!!

どの小学校にもプールがあって、水泳の授業をやっていることに驚いた!!

日本は海に囲まれているからかな...



*1 パワーハラスメント：上司から部下へ、教師から学生へ等の権力を使ったいじめ・いやがらせ

○ = ALTの意見
○ = 編集委員

家事などの分担や子育てについて

アメリカも家庭科があるのか…

家庭科の授業はアメリカにもあって、クッションやパンツをつくったよ。

僕は料理が得意だし、家事をする男性をめずらしいとは思わない。

最近では日本でも家事をする男性が増えてきたよ。

たしかに働く女性は大変だ。

カナダでも夫婦共働きの家庭が増えてきている。

日本の女性は、朝はお弁当を作り、日中は仕事をして、夜は家事をこなしている。それは、とても大変そうに見える…

It takes a village to raise a child.
(ひとりの子どもを育てるには、ひとつの村がいる)ということわざがあって、子育ては家族だけではなく、近所の人々の協力も必要だと思う。

そんないいことわざがあるんだ…

南アフリカでは多くの家庭にメイドさんがいて、家事はその人がしてくれる。

カナダにもあるよ。

そのことわざ、私の国にもある。

日本の男女共同参画などについて

90年代のアメリカでは同じ仕事でも男女で給料が違ったけど、最近では変わりつつあるよ。

「昔からこうだったから」ではなく、もっとオープンな気持ちで違う文化や考え方を取り入れて(チェンジマインド *change mind*)、いろいろと試してみる必要があるのでは？

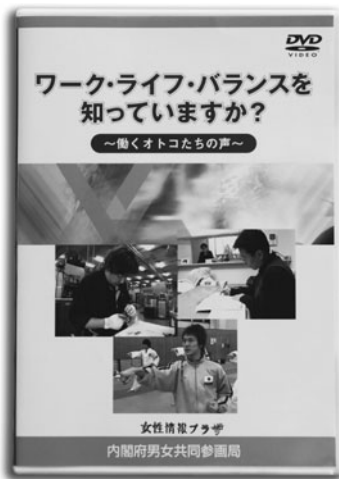
女性が家事、男性が仕事ではなく、家事も仕事も夫婦で分担することが大切。

男女平等(ジェンダー・イコール *gender equal*)になりつつあるけど、急には変わらないので、まだまだ時間が必要だと思う。

編集委員から ~取材をとおして感じたこと~

国際交流が進展する中、未来を担う児童・生徒に国際感覚とコミュニケーション能力を身につけてもらうため、新見市では英語教育に力を入れています。ALTの方も増え、市内の小・中学校も国際色豊かになってきています。今回は、世界の目から見た男女観を探ろうと考え、3名のALTの方に座談会形式で尋ねてみました。ウシジマさんは両親が日本人でカナダ育ちです。おかげで通訳の役目も兼ねていただき、生活習慣や考え方、行動の違いなどをとても詳しく聞くことができ、当初の心配をよそに充実した、なごやかな座談会となりました。

会話の中で、ALTの方が「日本の中学生は、失敗を恐れてチャレンジしない・・・」と言われていたのが気になりました。我々大人が、子育てを含め生きていく考え方や価値観を高める重要性を教えられたように思いました。



啓発DVDのご案内

『ワーク・ライフ・バランスを知っていますか?』

~働くオトコたちの声~

2008年 内閣府男女共同参画局

ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか?それは、「仕事」と「生活」を調和させるライフスタイルのこと。家庭や会社など私たちの身近なところで、すでに様々な取り組みが始まっています。このDVDでは、ワーク・ライフ・バランス社会の実現を目指す企業や、仕事と家庭の理想的なバランスを実践する人々の姿をドキュメンタリータッチで紹介します。

男女共同参画プラザのご案内

生き方・家庭のことなど、さまざまな悩みについて女性相談員が問題解決のお手伝いをします。

情報誌の閲覧や、図書も借りられます。

【開設日】

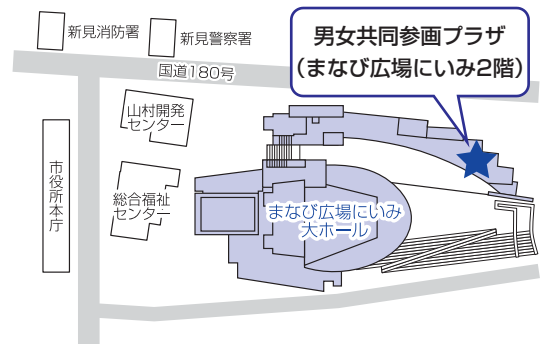
毎週 火・水・木曜日
10:00~18:00

(ただし、祝日・年末年始は除く)

電話相談もできます。(TEL: 72-6159)

【場所】

まなび広場にいみ 2階
メディアフロアー南側



ひとこと

お茶の精神に千利休が唱えた「和敬清寂(わけいせいじゃく)」という言葉があります。

『常に心静かに事物の本質を尋ねる姿勢で相手を敬いながら、自分を忘れずに人として和し合う心を常に持ち続ける精神』を短い言葉の中に述べているそうです。

団塊世代の人は、幼い頃から「男だから」・「女だから」と常に意識させられることが多く、無意識に男性・女性と考える習慣が身についてしまっているのではないのでしょうか?もちろん、すべてが悪い事ではないと思いますが.....

平成20年度男女共同参画の標語は「わかちあう 仕事も 家庭も 喜びも」が最優秀賞に決まりました。社会や家庭と環境はそれぞれ違いますが、共通するのは相手を思いやる気持ちと自分らしさを失わないことではないでしょうか?

今、時代は少子高齢化社会です。もう一度自分の周りを見つめてみませんか?